

第1章 基本理念

▶ 第1節 まちづくりの基本理念

時代の潮流を的確に捉え、地域の諸問題に対処しながら新たなまちづくりを進めるにあたり、その基本的な理念を掲げます。

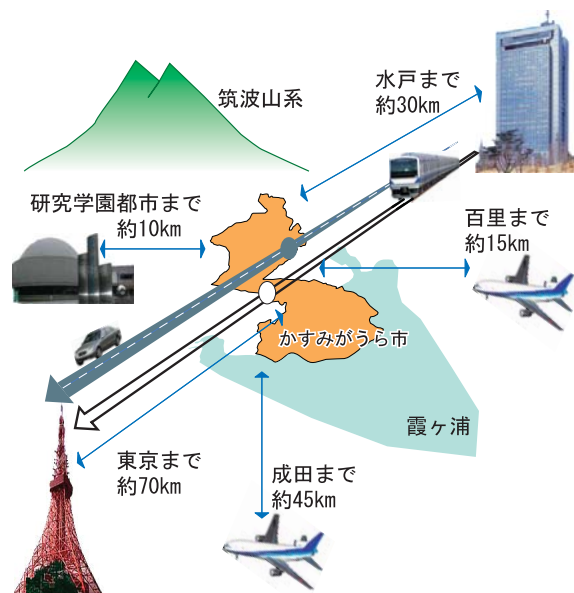
1. 豊かな自然を守り、生かした 「ふるさと」と呼べるまちを目指して

「物からこころ」「スローライフ社会」^{*}などと言われ、それらを大切にする時代背景の中、今後の都市間競争の中でも、「自然の豊かさ」や「居住環境のよさ」などの地域の財産を守りながら最大限に活用することで、「ふるさと」と呼べる暮らしやすいまちづくりを目指します。

2. 交通利便性や地域資源を生かした 「活力」ある元気なまちを目指して

本市は、豊かな自然環境の中にあいながらも非常に恵まれた交通立地条件にあるため、現在でも機械や食料品などの工場が集積しています。今後、民間共用化が計画されている百里飛行場からは15 km圏内にあり、そのアクセス道路の整備や、市域を縦貫する千葉茨城道路と霞ヶ浦二橋の構想も地域の新たな可能性に向けて期待されます。

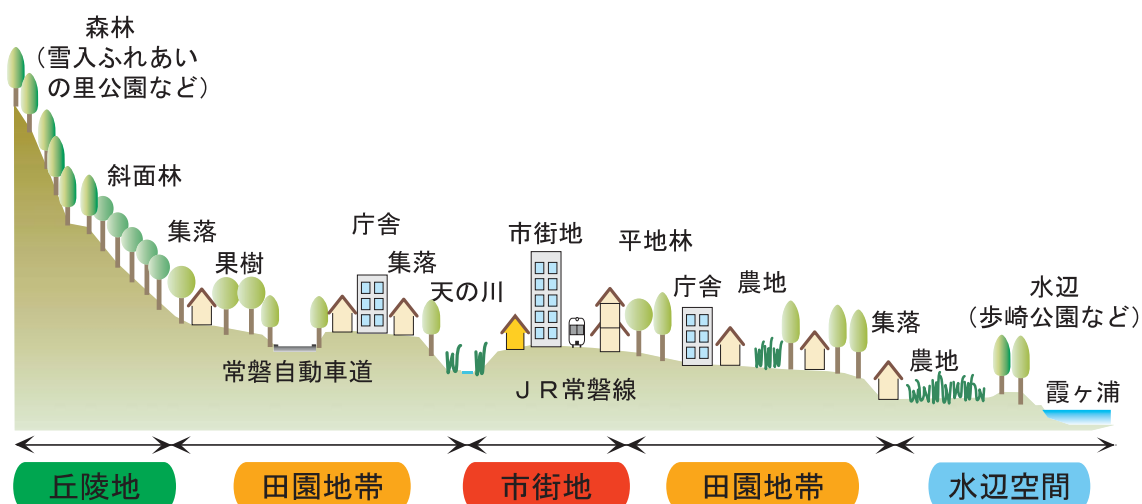
また、自然とのふれあいを大切にした生活指向が強まる中、今後とも観光・交流人口の増加の可能性が高いと考えられるため、豊かな自然・様々な地域資源・交通利便性の良さなどを生かした、「活力」あるまちづくりを目指します。



3. 各地域の持つ役割を大切にしながら 「個性と連携」のまちを目指して

本市は、北西から南東にかけて長い形状をしており、北西部の筑波山系の丘陵地から、南東部の霞ヶ浦の湖面までの間、小河川によって刻まれた起伏のある緩やかな台地や、谷津や湖岸の低地によって形成されています。

それぞれの地域の持つ役割を大切にしながら、さらに魅力や生活基盤を整えていくことが必要です。そして、それらが有機的に連携したまちづくりを進めます。



▶ 第2節 まちづくりの基本的考え方

「環境と共生する都市の創造」、「保健・医療・福祉の体制強化」、「新たな教育文化都市の創造」、「個性を融合させた地域産業の育成」、「市民と行政との協働」の5つをまちづくりの基本的考え方として、調和のとれた施策展開を図ります。

1. 環境と共生する都市の創造

だれもが安全で快適に暮らしていくためには、計画的な都市基盤の整備や都市の安全性の確保は欠かせません。また、市民が安らぎ、楽しめる自然環境と、安全で安心できる生活環境は、これからのまちづくりには重要な要素です。

そのため、本市の特徴である筑波山系と霞ヶ浦をはじめとした豊かで特徴ある自然環境を生かしながら、都市としての快適な暮らしを享受しつつ、市民や本市を訪れる人々に安らぎと潤いを与える自然環境と共生する都市づくりを進めていく必要があります。

そして、良好な環境を次の世代につないでいくために、循環型社会^{*}の一端を担う環境にやさしいまちづくりを目指し、環境保全と生活環境の向上の両面から、環境に配慮した地域社会へと移行していく必要があります。

また、住みやすい暮らしの空間の創出を図るため、市民の日常生活における利便性と安全性の向上などに向けて道路網など都市基盤の整備を計画的に進めるまちづくりが必要です。また、地域の特性にふさわしい街なみ景観の形成や良好な住環境の形成なども併せて行っていくことも必要です。

2. 保健・医療・福祉の体制強化

少子高齢化が進む中、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりが求められています。

保健分野では、近年増加傾向にある生活習慣病対策として保健予防を効果的に推進し、一人ひとりの健康づくりを支援していくことや、安心して子どもを産み育てられる環境づくりが重要となっています。

医療分野については、地域医療体制・救急医療体制の充実が望まれています。

福祉分野では、子どもたちを地域社会の中で健やかに育てるまちづくり(児童福祉)、介護予防を積極的に進めることによる地域で高齢者を支えるまちづくり(高齢者福祉)、障害者の社会参加の促進や地域で自立して暮らせるまちづくり(障害者福祉)などが求められています。

こうした保健・医療・福祉体制の一層の充実が求められるとともに、これらの連携強化やサービスを受けやすい環境づくりなども課題となります。

今後も、専門的な人材の確保育成とともに、社会福祉関連機関やボランティア・NP
O等との連携など、保健・医療・福祉の総合的なサービス提供体制の構築を図り、とも
に支え合うまちづくりを目指す必要があります。

3. 新たな教育文化都市の創造

市民一人ひとりの個性が尊重され、のびやかに成長することができる環境づくりとともに、だれもがいつでもどこでも豊かな学びや文化にふれあえるまちづくりが求められています。

近年、少子化の進行や核家族化、都市化の進展などにより、家庭や地域社会における子どもとのふれあい、子ども同士のふれあいが希薄になってきている中、子どもの自立性や社会性が育ちにくくなっています。そのため、未来を担う子どもたちが、のびのびと育つためには、親が安心して子育てできるための支援や、学校教育の充実が必要です。

また、心の豊かさや生きがいを求め、市民の主体的で創造的な様々な活動が進められています。市民が生涯にわたって、身近な環境で、様々な文化や歴史にふれたり、学習活動やスポーツに親しむ環境づくりが必要になってきています。

そのため、本市の図書館、郷土資料館、公民館、勤労者福祉施設、体育センター、運動公園など各種教育文化施設や設備を活用し、必要に応じて施設の役割と機能を見直すとともに、市民の主体的な学習活動やスポーツ活動を引き続き促進することが求められます。

さらに、貴重な文化財や市民の芸能活動、祭りなどの伝統行事が数多く受け継がれており、こうした地域の歴史や文化を後世に継承し、市民の文化団体の積極的な交流を図りながら、新たな文化創造の可能性を探り、地域文化を大切にすまちづくりを進めていくことが求められています。

4. 個性を融合させた地域産業の育成

本市の産業は、レンコンや果樹、内水面漁業など全国有数のシェアを誇る農林水産業と立地条件に恵まれて集積してきた商工業がバランスよく発展しています。

景気の長期低迷や産地間・国際間競争の激化、産業構造の転換が進む中で、まちの発展と市民の豊かな暮らしを支える産業の活性化は、大きな課題です。特に、農林水産業は、従事者の高齢化や農水産物の価格の低迷などから厳しい状況にあります。安全な食生活へのニーズの高まりを受け、また、農林水産業が有する国土の保全や水源のかん養など自然環境の保全機能、レクリエーション機能など多面的機能を発揮した地域づくりを行うためにも、一層の振興を図る必要があります。

そのため、本市では、豊かな地域特性と資源を一体化しながら積極的なPRを展開し、ブランド化の維持・強化につなげる取り組みや、常磐自動車道の千代田石岡インターチェンジや千代田パーキングエリア周辺などを生かした取り組み、既存施設を活用した誘客の促進、観光客の受入れ体制の充実強化を図ります。さらに、地域環境とマッチした新しい産業誘導、産業振興による雇用の拡大や流通の拡大に結びつけていくことが必要です。

5. 市民と行政との協働

多様化する市民ニーズに対応したまちづくりには、市民と行政、地域、それぞれのあらゆる場面での協働のまちづくりが欠かせません。

市民と行政との協働のためには、まず、行政自身が効率的・効果的な行財政運営を推進し、多様な市民ニーズに対応した行政サービスの運営などを図っていく必要があります。そのため、複雑な行政課題に対応しながら、今後も行政サービスの維持と向上を図り、定員管理の適正化、事務事業の見直し、民間委託の推進など、行財政改革を一層推進することが不可欠です。

そして、市民や市民が参加する団体などが、市政運営に積極的に参画する仕組みづくりを図ることが重要です。地域においては、それぞれの個性を最大限に生かしたまちづくり施策の展開を図り、伝統的なコミュニティ[※]を継承していくとともに、ボランティア活動など、新たな地域づくり活動の育成を図っていく必要があります。

また、男女が互いに尊重し合い、あらゆる活動に参画し、能力を発揮できる社会づくりに努めていく必要があります。